

いまもあしたも誇れる座間であるために…

発行者：おぎはら健司
メールアドレス：info@ogiharakenji.com
連絡先：042-719-4972 (ファックスも同じ)

おぎはら健司の市政レポート

平成28年度決算について

北朝鮮による、事前の通告のないミサイル発射に引き続き、6回目となる核実験が強行されてしまいました。国際社会を通じて、外交手段だけでなく、あらゆる策を講じて断固として対応しなければならない事態であり、日米韓のみならず中国やロシアを巻き込んでの対応を強く望みます。

さて、平成29年第三回定例会が開会しましたが、上程された議案に対する『自民党・いさま』の総括質疑は、代表して不肖ながら私が去る9月1日に行いましたが、主な内容は、平成28年度座間市一般会計決算についてであり、今号からはその内容についてレポートします。

平成28年度は、座間市としては6年ぶりとなる実質単年度収支が赤字となる決算となりましたが、歳入面では法人市民税法人税割や地方交付税などが12億9千万円余減少した事に加え、歳出面では市債償還元金や新消防庁舎建設事業費（H29年度末より供用開始予定）などによる8億7千万円余増など、その要因は明確になっています。

これらの財源不足を補完したのが、年度間の財源調整に充てられる財政調整基金（財調）で、当該年度当初（H28年4月）には14億8千4百万円余であったものが、この年度中10億2千万円余が取り崩され、同じく年度中積立額が5億2千6百万円余と合わせて、年度末残高は（H29年3月）には9億8千9百万円余となりました。

なお、財調はH29年度当初予算編成の際の財源不足にも充てられ、一時は2億円を下回りましたが、今定例会上程のH29年度補正予算により、再び11億円を上回る事になります。

一部の議員からは、H29年度当初の財調が2億円を下回った事について問題視する向きもありましたが、H29年度当初予算審議の討論の際にも述べたとおり、積極的に事業を推進しよ

うという姿勢こそ評価すべきと考えます。

話は逸れましたが、実質単年度収支が赤字になり、本市の財政状況はどのようになっているかというのが心配になりますが、自治体の財政状況を示す指標のうち、その余裕度を表す財政力指数では、H27年度まで0.8ポイント台（1を超えると地方交付税の不交付団体となりますが、H27年度の不交付団体は東京都など計60自治体のみ）であったものが、0.9ポイント台へと改善され、財政の健全性を表し、3～5%が望ましいとされる実質収支比率は4.1%となり、加えて、実質的な負債が財政に及ぼす負担を示す実質公債費比率1.5%へと改善され、県央7市平均と比較し1.9%低くなっています。

これらの数値は、専門的であり理解しにくいものですが、簡単に表せば「単年度の収支は赤字となったが原因は明白。前後数年の見通しについても、他市と比較しても悲観すべき点は見当たらない」と言って良いものですが、これから始まる委員会での審査などの状況と合わせて、今後のレポートで詳しく報告して参ります。

「東海相模通り」その後について

前号でお伝えした通り、相模カンツリークラブ周辺に加え、松が枝町交差点から小田急線までの区間の工事も間もなくスタートしますが、これらの工事に加え、まだ詳らかに出来ませんが、更なる進捗について、大いにご期待いただける情報が得られています。

相模カンツリー周辺の座間市側の歩道整備が始まったことにお気付きの方も多いと思いますが、さらに目指すべきは、松が枝町交差点（ココ壱前）の信号機を歩車分離式にする事で、相模が丘地区7自治会長のご理解を得て、連名による要望書を7月21日に提出いたしましたので、今後の警察（所轄する相模原南警察署）の判断を待ちたいと思います。